

しばた 雅子

32歳

福岡

改選数3



福岡から始まる

ストップ
安倍政権

大激戦の参院福岡選挙区。日本共産党のしばた雅子候補(32)―新―は「平和が私の原点。多くの国民の反対を押し切って戦争法を強行した安倍暴走政治を許すのか、立憲主義を取り戻すのかが問われています」と訴え、共感を広げています。

米重知聡記者

改選数が1増で3と

んでいます。

しばた候補は「市民が求める野党共闘が野合であるはずがありません」「自民、公明は争いに公認候補をたてました。有力4候補が3議席を争う「かつてない混戦模様」(西日本新聞)の大激戦です。自民候補は「アベノミクス」を礼賛し「戦争法ではなく平和法」と弁解。公明候補は「争点は安定の自公か、混乱の民共か」と野党共闘批判を強めています。他方で大争点に浮上した憲法改定、9条改憲には口をつぐ

んでいます。しばた候補は「市民が求める野党共闘が野合であるはずがありません」「自民、公明は争いに公認候補をたてました。有力4候補が3議席を争う「かつてない混戦模様」(西日本新聞)の大激戦です。自民候補は「アベノミクス」を礼賛し「戦争法ではなく平和法」と弁解。公明候補は「争点は安定の自公か、混乱の民共か」と野党共闘批判を強めています。他方で大争点に浮上した憲法改定、9条改憲には口をつぐ

強く訴えています。

しばた候補への支援の輪が日増しに広がっています。野党共闘を応援する市民団体の「市民連合ふくおか」や「みんなで選挙ふくおか」が推薦。応援演

おか」が推薦。応援演

説に立ち、フェイスブックなどのSNSで政策や街頭演説を告知、ビラ配りや個人ビラへの証紙張り、電話かけなど「やれることは何でもやる」と奮闘しています。

無視して突っ走る安倍政権は本当に許せない。共産党に大きくなってほしい(60代女性)などの声が寄せられています。

共産党と縁のなかった人が「安倍政権を終わらせるために何をすればいいか」と、党事務所を訪れる例も増えています。

自民は企業や団体などへの締め付けを強め、公明は九州一円から動員をかけ、自民支持層の取り込みも図るなど必死の選挙戦を展開しています。

しばた候補は、自ら新聞奨学生やブラック企業で働いた体験をもとに、税金の使い方、働き方などのチェンジを訴え、共感を広げています。

共産党福岡県委員会は「国民との共同に全力を尽くす日本共産党が比喩で躍進し、しばた候補を当選させることが、自公を少数に追い込む確かな力になる」と強調。大激戦を勝ち抜くために、比例40万票を獲得し、その大波に、しばた候補の魅力を乗せて、必ず国会に押し上げようと、よびかけています。

演説を聞いた人からは「学費のことが気になっている。大学学費半減や給付制奨学金をぜひ実現してほしい」(20代女性)、「民意を

に頑張ってもらいたい。しばたさんは新聞奨学生として働きながら大学へ行き、就職後もブラックな職場に苦しめられた経験があるので、若者の立場や苦勞をよくわかる人だと思っています。国会議員になっても、経験を生かして、かゆい所に手が届く政策を実現してくれと期待しています。

「戦争する国」子どもに手渡せない

安保関連法に反対する
ママの会@福岡

宮下 彩さん

私が初めてデモに行ったのは秘密保護法反対のデモです。そのこ

ろは、まさかこんなに早く事態が進んでしまふとは思っていませんでした。安保法案が提出されたとき、「これは明らかにやばい」と福岡でもママの会を立ち上げました。

3歳と6歳の子どもがいます。子どもたちにはできるだけ愛情を

注ぎ、家で安心してご飯を食べさせ、なるべく一緒にいたい。でもそれだけじゃ子どもを守れないところにきています。戦争できる国になった日本を、子どもや孫に手渡すことはできません。非正規雇用やブラック企業、子育て、福祉、すべて根っこは一緒です。安心して暮らせる社会にするために、しばたさん

